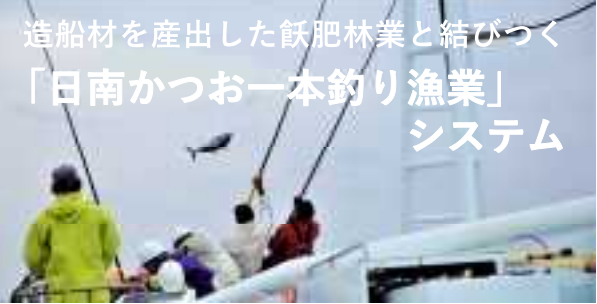


造船材を産出した飼肥林業と結びつく 「日南かつお一本釣り漁業」 システム





日本農業遺産

令和2年3月認定

「日南かつお一本釣り漁業」は、日本近海を北上するかつおを船団で追い、漁師が竿で一匹一匹釣り上げていく漁業です。造船材に特化した人工造林を行った特殊な飼肥林業と絡み合い、今日まで地域を支える産業として継承されています。

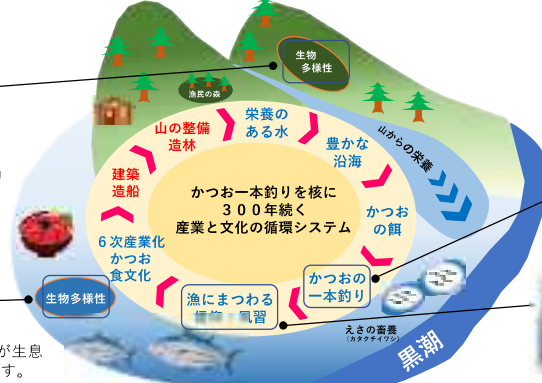
生物多様性



日南市の天然林には、505種の植物、380種の動物が生息しており、希少生物の宝庫となっています。



日南市の海には、500種を超える魚介類が生息しており、新種の生物も発見されています。



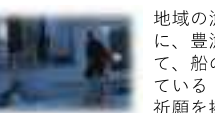
かつお一本釣りを核に
300年続く
産業と文化の循環システム

300年以上続く伝統漁業



300年続く「日南かつお一本釣り漁業」。漁獲効率よりもかつおの資源を守ることを優先した伝統漁業です。

漁にまつわる信仰・風習



地域の漁師たちは、初出漁前に、豊漁と航海安全を祈念して、船のブリッジ内に祀られている「船霊さま」に神職が祈願を捧げます。

日本農業遺産認定による効果（取組状況）

【様式2】

食料及び生計の保障 <u>システムの認知度向上</u> <u>かつお一本釣り漁業の価値向上</u> 市内漁協は、水揚げされたかつおを日南産が記載された統一パッチで出荷するとともに、鮮度保持の取組を行っている。 また、日南かつお一本釣りシステムの認知度向上・価値向上を図るため、市内外で開催される農業遺産関連イベントへの出展を行っている。 ☐ 都市部でのPR活動：2回/年(目標値)→6回/年(R5) ☐ 料理フェアの開催：1回/年(目標値)→2回/年(R5) ☐ 料理の提供数：2,000食/フェア期間(目標値)→4,479食/フェア期間(R5) ☐ かつおPR実施：3回/年(目標値)→5回/年(R5)  ▲日南初かつおフェア	次世代への継承 <u>日南かつお一本釣りにまつわる文化の継承</u> 漁師たちは、航海安全や豊漁、子孫繁栄を祈念し、毎年初出漁前に「えびす神楽」を奉納する。 ☐ えびす祭りの実施：1回/年(目標値)→1回/年(R5)  ▲えびす神楽 <u>子どもたちへの環境教育、食育教育</u> かつお一本釣り漁の仕組みや漁の保全の取組を学ぶ教育活動を推進するとともに、子ども達が自らかつおを捌く料理教室を行い、食育から漁業を学ぶ取組が進んでいる。 ☐ かつお一本釣り講座の開催：2回/年(目標値)→4回/年(R5) ☐ かつお料理・捌き方教室：5回/年(目標値)→16回/年(R5)
地域振興 <u>地域一体となった漁村活力の維持の取組み</u> 市民参画によるかつお一本釣り漁業伝承者の育成やかつお一本釣りのまちのブランド化による集客向上を図るため、漁業体験のイベントを行っている。 また、かつお加工品の魅力向上と消費拡大を図るため、6次産業化を推進している。  ▲漁業体験広場 ☐ かつお一本釣り漁業サポーター数：R3~R7 100名(目標値)→R3~R5 91名(R5時点) ☐ イベント、セミナーの実施：2回/年(目標値)→8回/年(R5) ☐ 加工品販売PR：2回/年(目標値)→5回/年(R5)	生物多様性の推進 <u>生物多様性を支える仕組みや取組み</u> 豊かな海を維持する為、漁業者自ら「漁民の森」を整備、海岸清掃や藻場の有害生物の駆除活動を行っている。 また、豊かな森林から栄養塩を含んだ水が海へ流れ、豊かな海を形成しているため、森林整備計画に基づいた森林の管理を実施している。  ▲漁民の森 ☐ 漁民の森の整備：2回/年(目標値)→2回/年(R5) ☐ 漁場・藻場の保全活動：5回/年(目標値)→18回/年(R5) ☐ 再造林面積：R3~R7 700ha(目標値)→R3~R5 677ha(R5末時点)